

生活行動と人体

単位数	履修方法	配当学年
2単位	R	2年以上



科目コード	EA3194	担当教員	後藤 美恵子
-------	--------	------	--------

この科目は、平成21年度以降入学者に対して開設されている科目です。平成20年度以前に入学した方は、履修することはできません。

■科目の内容

こころとからだは相互に影響し、意欲や行動などに影響をおよぼします。生活支援技術の根拠となる人体の構造や機能を加齢や疾患とこころとの関連性から総合的に理解し、個々の残存能力・潜在能力を引き出し、人間の尊厳の尊重と自立を支援するための方法論を体系的に学習します。

■到達目標

- 1) 移動のしくみの概要をからだの動きと関連づけて説明できる。
- 2) 食事の摂食過程と精神機能の低下が食事に及ぼす影響について説明できる。
- 3) 排泄のメカニズムと排泄障害について説明できる。
- 4) 生活行動を関連づけて、人体のしくみについて説明できる。

■教科書

介護福祉士養成講座編集委員会編『新・介護福祉士養成講座14 こころとからだのしくみ（第3版）』中央法規出版、2014年（第3版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2014年4月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	こころのしくみを理解する (第1章)	人間の欲求、自己実現と尊厳、こころのしくみの基礎について理解する。 キーワード：人間の欲求、自己実現、尊厳、こころ、脳、学習、記憶、思考、感情、認知、意欲・動機、適応、人格	人間の欲求、自己実現と尊厳、こころのしくみの基礎について理解し、説明できるようにしましょう。
2	からだのしくみを理解する (第2章)	からだのしくみ、からだの動きについて理解する。 キーワード：こころの調和、恒常性、からだの部位、機能低下、骨・関節、筋肉、神経系、ボディメカニクス	からだのしくみ、からだの動きについて理解し、説明できるようにしましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
3	身じたくに関連したしくみ 身じたくのしくみ (第3章第1節)	身じたくに関連した、眼、爪、毛髪、口腔、舌の構造と機能について理解する。 キーワード：目、爪、毛髪、口腔、舌	身じたくに関連した、眼、爪、毛髪、口腔、舌の構造と機能について理解し、説明できるようにしましょう。
4	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響 (第3章第2節) 変化の気づきと対応(身じたく) (第3章第3節)	からだのしくみ、からだの動きについて理解する。 キーワード：心身機能低下と身じたくの関連性	からだのしくみ、からだの動きについて理解し、説明できるようにしましょう。
5	移動に関連したしくみ 移動のしくみ (第4章第1節)	移動の目的、基本的な姿勢、移動に関連したところとからだのしくみについて理解する。 キーワード：基本的姿勢、移動動作	移動の目的、基本的な姿勢、移動に関連したところとからだのしくみについて理解し、説明できるようにしましょう。
6	心身の機能低下が移動に及ぼす影響 (第4章第2節) 変化の気づきと対応(移動) (第4章第3節)	・精神機能、身体機能の低下が移動に及ぼす影響について理解する。 ・移動を支援する際の観察、医療との連携のポイントについて理解する。 キーワード：心身機能低下と移動の関連性	・精神機能、身体機能の低下が移動に及ぼす影響について理解し、説明できるようにしましょう。 ・移動を支援する際の観察、医療との連携のポイントについて理解し、説明できるようにしましょう。
7	食事に関連したしくみ 食事のしくみ (第5章第1節)	食事の目的、食事に関連したところとからだのしくみ、代償的な栄養摂取法、食事の種類について理解する。 キーワード：食事のしくみ、栄養摂取法、食事の種類	食事の目的、食事に関連したところとからだのしくみ、代償的な栄養摂取法、食事の種類について理解し、説明できるようにしましょう。
8	心身の機能低下が食事に及ぼす影響 (第5章第2節) 変化の気づきと対応(食事) (第5章第3節)	・精神機能、身体機能の低下が食事に及ぼす影響について理解する。 ・食事を支援する際の観察、医療との連携のポイントについて理解する。 キーワード：心身機能低下と食事の関連性	・精神機能、身体機能の低下が食事に及ぼす影響について理解し、説明できるようにしましょう。 ・食事を支援する際の観察、医療との連携のポイントについて理解し、説明できるようにしましょう。
9	入浴・清潔保持に関連したしくみ 入浴・清潔保持のしくみ (第6章第1節)	入浴・清潔の目的、入浴・清潔に関連したところとからだのしくみについて理解する。 キーワード：入浴、清潔	入浴・清潔の目的、入浴・清潔に関連したところとからだのしくみについて理解し、説明できるようにしましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
10	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 (第6章第2節) 変化の気づきと対応(入浴・清潔保持) (第6章第3節)	・精神機能、身体機能の低下が入浴・清潔に及ぼす影響について理解する。 ・入浴が身体に及ぼす負担、入浴・清潔を支援する際の観察、医療との連携のポイントについて理解する。 キーワード：心身機能低下と入浴・清潔の関連性	・精神機能、身体機能の低下が入浴・清潔に及ぼす影響について理解し、説明できるようにしましょう。 ・入浴が身体に及ぼす負担、入浴・清潔を支援する際の観察、医療との連携のポイントについて理解し、説明できるようにしましょう。
11	排泄に関連したしくみ 排泄のしくみ (第7章第1節)	排泄の目的、排泄に関連したところとからだのしくみについて理解する。 キーワード：排泄機能	排泄の目的、排泄に関連したところとからだのしくみについて理解し、説明できるようにしましょう。
12	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響 (第7章第2節) 変化の気づきと対応(排泄) (第7章第3節)	・精神・判断力、身体機能の低下が排泄に及ぼす影響について理解する。 ・排泄を支援する際の観察、医療との連携のポイントについて理解する。 キーワード：心身機能低下と排泄の関連性	・精神・判断力、身体機能の低下が排泄に及ぼす影響について理解し、説明できるようにしましょう。 ・排泄を支援する際の観察、医療との連携のポイントについて理解し、説明できるようにしましょう。
13	睡眠に関連したしくみ 睡眠のしくみ (第8章第1節)	睡眠の目的、睡眠に関連したところとからだのしくみについて理解する。 キーワード：レム睡眠、ノンレム睡眠	睡眠の目的、睡眠に関連したところとからだのしくみについて理解し、説明できるようにしましょう。
14	心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響 (第8章第2節) 変化の気づきと対応(睡眠) (第8章第3節)	・睡眠に影響を及ぼす心身機能の低下、睡眠障害について理解する。 ・睡眠を支援する際の観察、医療との連携のポイントについて理解する。 キーワード：心身機能低下と睡眠の関連性	・睡眠に影響を及ぼす心身機能の低下、睡眠障害について理解し、説明できるようにしましょう。 ・睡眠を支援する際の観察、医療との連携のポイントについて理解し、説明できるようにしましょう。
15	死にゆく人に関連したしくみ (第9章)	・死のとらえ方、尊厳死、終末期(ターミナル期)について理解する。 ・身体機能の特徴、臨終期の対応、死後のからだの変化、死後の連絡について理解する。 キーワード：終末期、尊厳死、臨終期	・死のとらえ方、尊厳死、終末期(ターミナル期)について理解し、説明できるようにしましょう。 ・身体機能の特徴、臨終期の対応、死後のからだの変化、死後の連絡について理解し、説明できるようにしましょう。

■レポート課題

1 単位め	移動のしくみの概要をからだの動きと関連づけながら概要を整理し、心身の機能低下が移動に及ぼす阻害要因と対応方法について自立支援の観点から具体的に論述しなさい。
2 単位め	①食事の摂食過程を整理し、精神機能の低下が食事におよぼす影響と対応方法について論述しなさい。 ②排泄のメカニズムと排泄障害を整理し、人間の尊厳を尊重した排泄への関わりについて論述しなさい。

■アドバイス

1 単位め アドバイス

移動はすべての生活行為の基本です。第4章の移動のしくみについて、第2章第2節のからだのしくみと関連づけながら概要を整理し、心身の機能低下が移動におよぼす要因と対応方法について自立支援の観点から自身の考えを具体的に述べてください。

2 単位め アドバイス

①人は生まれた時から死ぬまで、毎日の生活に必要なエネルギーを食事によって補っています。食事は日常生活の中で、人の命に関わることで一日も欠かすことのできない大切なものであり、精神的満足感や個人の生活歴や生きてきた文化を象徴するものでもあります。一方、食欲は健康状態や生活意欲を反映するとも言えます。第5章を読み、食事の摂食過程としくみについて整理し、精神機能の低下が食事におよぼす影響と対応方法について、テキストの内容を踏まえ自身の考えを述べてください。

②排泄は生命を維持していくための大切な行為であり、健康状態を知るバロメーターともなります。一方で、個人の尊厳に関わる行為でもあります。テキスト第7章の排泄に関連したしくみの概略を整理し、個人の尊厳を尊重した関わりについて自身の考えを述べてください。

■科目修了試験 評価基準

- 1) 出題された課題の内容について理解できているか。
- 2) 課題に対する解答が指定のテキストの内容を踏まえているか。
- 3) テキストの内容を踏まえて、課題に対する自身の視点で考察がされているか。
- 4) 記述の分量が、800字程度以上書かれているか。

■参考図書

- 1) 住居広士編『こころとからだのしくみ』ミネルヴァ書房、2009年
- 2) 介護福祉士養成講座編集委員会編『新・介護福祉士養成講座11 発達と老化の理解（第2版）』中央法規出版、2011年